

学校点描

放課後教室でプレゼンの練習をしている生徒の姿が見られます。今週金曜日に、3年生が金山についての学習発表会を行うためです。

《K中学校》

NO.13 R2. 10. 6

担当：校長

9月上旬より学習指導員としてI・Hさん、スクールサポートスタッフとしてO・Fさんが新たにK中職員に加わり勤務してもらっています。国のコロナ対策の施策を活用しています。

10月2日に前期の終業式、6日に後期の始業式を行いました。式といっても、このコロナ禍の中ですので、全校生徒を集めてとはいきません。校内放送を使って話をさせてもらいました。

3日は、新庄市陸上競技場にて最上地区新人陸上競技大会が開催されました。前期大会が終了した後の練習でしたので、出場した選手の皆さんは短い期間での準備となりました。結果、女子共通走幅跳でS・Hさんが第3位、女子1年100MでS・Mさんが第5位、女子共通100MHでS・Mさんが第7位、女子共通200MでS・Hさんが第8位、女子共通走高跳でM・Rさんが第8位、女子共通4×100リレーでS・Mさん、I・Hさん、H・Fさん、S・Hさんが第8位に入賞しました。男子では、男子共通3000MでK・Tさんが第4位、男子共通走高跳でI・Kさんが第4位、男子共通走幅跳でT・Kさんが第8位に入賞しました。大会に出場した選手の皆さんの頑張りを称えます。

星に願う子Ⅱ

この9月に本校の職員の、武山先生、遠田先生（旧姓 中部）が、それぞれパートナーと入籍なされました。うれしいニュースは、学校を明るくさせてくれます。

この歳になると、もう結婚式に呼ばれることは少なくなりました。それでも今も忘れない印象的な結婚式があります。その結婚式の新婦は、私が勤務した中学校の女子生徒でした。

その女子生徒のお家に家庭訪問をした時、笑顔でお母さんとおばあちゃんが温かく出迎えてくれたのを覚えています。実は、この生徒のお父さんは、2歳か3歳のときに亡くなったのです。だから、おかあさんとおばあちゃんの女手だけで、育てている家庭でした。歳の離れたお兄さんも、よいお父さん役をしてくれていました。

「先生、この子の小学生の時の作文読んで。」とお母さんから差し出されたのは、一冊の文集です。その中に、〇〇賞受賞作として、『星になったお父さん』という作文が掲載されていました。その子の作文です。小さい頃から、お母さんは、「学校で起こったこと、家で起こったことは、星にいるお父さんに報告しなさい。」と言ってきたんだそうです。だから、この子は、本当に星にお父さんがいると思って、毎晩、星に向かって、今日起きた楽しいこと、嫌なことを報告してきたという文章でした。

「お蔭で、何が起きても前向きなのが、この子のいいところ。」とわが子のよさをお母さんが話したことを覚えています。おばあちゃんもうなずいていました。確かに、目の前で困って

いる人を見ると、それが誰であろうと声をかけてくれるそんな生徒でした。そのことで声をかけると「私らしいでしょ」と、答えてくれたことを思い出すのです。

始業式や終業式では、『This is Me（これが自分）』をもってほしいと語りました。環境は違えども、誰もが可能性を持っています。自分はだめな人間なんだと思えば、だめな結果しか起きないものです。「だめだめ」と言い続ければ自己肯定感は低くなります。言い訳に「どうせ自分なんか」と言う子になります。もっともっと、よさを自覚させなければなりません。もっと中学生には自分の可能性を信じてほしいわけです。だって、それが事実なんですから。

結婚式の話にもどります。キャンドルサービスのあと、新婦からお母さんにメッセージを読みました。「待ってました！」と、どこかの酔っぱらった男性が野次を飛ばします。

「お母さん。今まで本当にありがとう。おばあちゃん。体に気をつけて長生きしてね。お兄ちゃん、お父さんの代わりになって、いつもわたしを守ってくれましたね。ありがとう。わたしが、看護師を目指して寮で過ごしていたとき、風邪で倒れたと聞くと、お母さんとお兄ちゃんが、いつもその日のうちに、遠くから車でやってきてくれました。そしてわたしに手料理を食べさせてくれましたね。わたしは、こんな家族の中で生活してきました。…」会場は、みんな涙なくては、聞けません。もう野次なんて飛ばすはずがありません。



「最後に、お父さん。どこかで見ていますか？私は、小さい頃から、お母さんにお父さんは星にいるから、何でも話さないといわれて、毎晩話してきました。これが今のわたしをつくったんだと思います。お父さん、支えになってくれてありがとう。」

ふと、私は壇上にいる、新婦のお母さんに目をやりました。こんなメッセージを読まれたら、もう大変だろうなあと。ところが、お母さんは、にっこり笑顔で、涙ひとつこぼしていません。きっと、子どもを育て上げるのに、流した涙は、こんなものじゃないのでしょうか。

それを思ったら、わたしは、自分の涙の軽さを恥じたのです。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

メールでご意見をいただいても構いません。 Shinyatk1616n@yahoo.co.jp